

青年海外協力隊 30年の歴史

青年海外協力隊は、誕生から現在に至る30年間に、社会情勢の推移と共に幾多の変化を遂げてきました。ここでは簡単に30年間の協力活動を振り返ってみました。

1964年
1月/日本、コロンボプラン加盟
1960年
1月/オランダ、ララングス「南北問題」の重要性指摘
1961年
9月/ラネディネ大統領「国連開発の10年」提唱
1962年
6月/海外技術協力事業団(OECA)設立
1965年
11月/国連開発計画(UNDP)発足
1966年
11月/アジア開発銀行(ADB)設立

1967年
8月/東南アジア諸国連合(ASEAN)発足

1968年
12月/日本、GNPアメリカに次いで世界第2位

1969年
10月/ピアソン報告「開発におけるパートナーシップ」

1965

オース
10月24日派遣開始

1966

カンボディア
11月9日派遣開始

マレーシア
11月16日派遣開始

フィリピン
12月29日派遣開始

ケニア
12月30日派遣開始

インド
12月18日派遣開始

1967

タンザニア
3月30日派遣開始

モロッコ
8月21日派遣開始

1968

エルサルバドル
8月12日派遣開始

1969

1965-1974



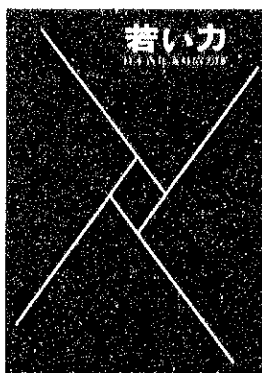
最初の訓練候補生31名の訓練は横浜移住センターで2カ月にわたって行われた。→東洋の精神を学ぶため、押しもカリキュラムに取り入れられた



日本青年海外協力隊初の派遣社行会、新宿駅ビル7階にて開催



1965年7月、協力隊機関誌「若い力」創刊される



活動の合間に小学生にまじって現地語の勉強をする隊員、フィリピンにて



インドでは1960年から12年間、看護婦、部作、家畜飼育など延べ131名の隊員が派遣された



1970

- シリア
11月9日派遣開始
- ザンビア
3月31日派遣開始
- カンボディア
6月派遣開始
- スハール
9月11日派遣開始
- ウガンダ
12月21日派遣開始

1971

- マラウイ
11月16日派遣開始

1970年
10月/国連「第2次国連開発の10年」採択

1971年
1月/国家公務員派遣法施行



1967年3月、タンザニアに30名の初代隊員が派遣された。その内24名の女性隊員は各地の社会開発センターで地域婦人を対象に協力活動を展開した



1972

- エチオピア
8月14日派遣開始
- 西サモア
11月11日派遣開始

1973

- トンガ
8月30日派遣開始
- パングラチン
8月18日派遣開始

1974

- コスタリカ
10月8日派遣開始

1972年
6月/国連人間環境会議「人間環境宣言」採択

1973年
10月/第1次オイルショック

1974年
8月/国際協力事業団(JICA)設立



モロッコ・ラバト空港で大使館員、先駆隊員(右端)の出迎えを受ける3人の新隊員



モロッコ、カサブラカの市場で買い物をする隊員たち



シリア、ダマスカスの街中で、屋台で売られるさくらんぼを買う隊員

1975年
11月/第1回先進国首脳
会議(パリ)

1976年
4月/旧協力隊を育てる
会発足

1975
テュニシア
4月23日派遣開始

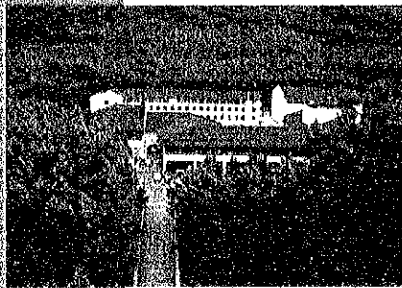
1976
ホンデュラス
8月20日派遣開始

1975-1985



1975年協力隊発足10周年記念
創映画「アサンテサーナ・わ
が愛しのタンザニア」完成。
462カ所で自主上映、24万人
を動員

1978年9月号より協力隊機関
誌「若い力」が改題され「ク
ロスロード」に



←1979年5月駒ヶ根訓練所開所
↑駒ヶ根訓練所での食事風景。食事
の間も日本語は禁止、寸暇を惜しん
で語学の習得に励む



1977年
3月/第2次世界大戦
債終了

1978年
7月/福田首相
サミットでODA3年
増を国際公約

1977
カーナ
6月17日派遣開始

エチオピア
6月派遣中断

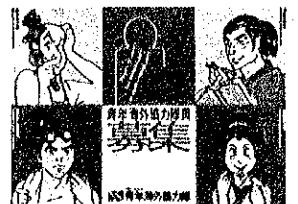
1978
バングラ
2月24日派遣開始

ボリビア
4月7日派遣開始

チオス
6月派遣中断

インド
12月派遣中断

↑(左) グラウンドで
ソフトボールを楽しむ
隊員候補生たち
↑(右) 訓練の一環と
してスキーが取り入れ
られる





20周年記念写真集
「地球色の日焼け」

20周年ロゴマーク

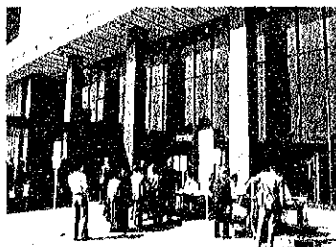


20周年記念切手

1985年10月9日、協力隊発足20周年を記念し、NHKホールにて式典が開催され、協力隊イメージソング「地球色の日焼け」が披露された。また、同時に記念切手の発行、一般公募による20周年ロゴマークの決定、記念誌「青年海外協力隊の歩みと現状—その20年—」の他、写真家田沼武能氏の監修による記念写真集「地球色の日焼け」を刊行、当時の協力隊全派遣国をビジュアルで紹介している



式典で武田鉄矢氏が隊員と共にイメージソング「地球色の日焼け」を披露



「いま、いつまでも、友達です。」

特集

1979

リベリア
4月29日派遣開始

エル・サルヴァドル
4月派遣開始

ソロモン諸島
6月17日派遣開始

エチオピア
10月18日派遣開始

1979年

1月/第2次オイルショック
8月/獨ヶ根國庫所開所

1980

ペルー
2月6日派遣開始

バングラ
ニューギニア
7月31日派遣開始

セネガル
10月16日派遣開始

1980年

12月/国連「第3次国連開発の10年」採択

1981

スリランカ
4月3日派遣開始

タイ
7月28日派遣開始

1981年

10月/南北サミット「協力と開発に関する国際会議」開催

1982

モルディヴ
2月26日派遣開始

1982年

4月/ASEAN人権リセ
ンター協力事業開始

1983

フィジー
7月26日派遣開始

1983年

12月/助成金海外協力協
会発足

1984

ニジェール
11月28日派遣開始

1984年

8月/国連国際人口会議
「人口と開発に関する
メキシコシティ宣言」
採択

1985

ロロンビア
7月24日派遣開始

1985年

3月/国連アフリカ緊急
援助国際会議

ドミニカ共和国
12月18日派遣開始

1986年

4月/チェルノブイリ原子力発電所事故

1987年

6月/地方公務員派遣法制定
10月/「国際協力の日」制定

1988年

12月/日本ODA実績第1位 (DAC諸国中)

1989年

4月/NGO事業補助金制度発見

1990年

7月/日本、世界初の「借款返済終了」東欧ドイツ統一
10月/国連「第4次国連開発の10年に関する開発戦略」採択

1991年

1月/国際ボランティア貯金開始
2月/湾岸戦争終結
8月/ソ連崩壊

1986

ヨルダン
3月26日派遣開始

中国
12月18日派遣開始

1987

リウワンダ
3月26日派遣開始

1988

インドネシア
7月9日派遣開始

グアテマラ
7月9日派遣開始

フィリピン
7月12日派遣開始

1989

グアテマラ
11月4日派遣開始

ソマリア
7月13日派遣開始

ジャマイカ
7月13日派遣開始

ミクロネシア
11月18日派遣開始

1990

リベリア
8月派遣中断

ラオス
7月13日派遣再開

スーダン
12月3日派遣開始

1991

イエメン
4月24日派遣開始

パナマ
7月12日派遣開始

マーシャル諸島
7月16日派遣開始

エクアドル
7月18日派遣開始

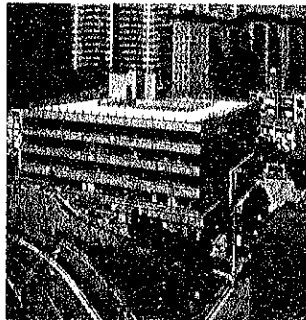
ニカラグア
8月18日派遣開始

コートジボワール
12月11日派遣開始

1986-1995

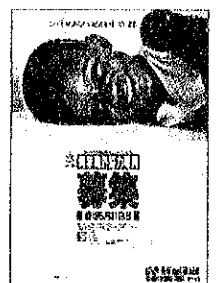
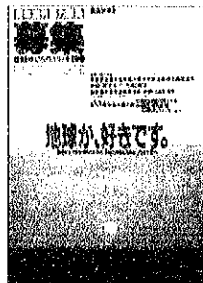
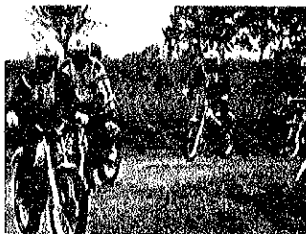


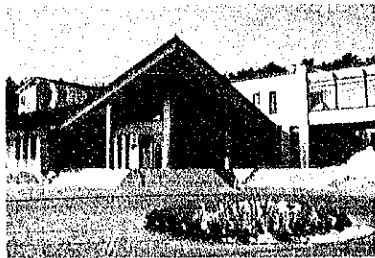
← 1984年8月、複数の職種の隊員を組み合わせ
た初のチーム派遣「マレーシア国サバ州開発プ
ロジェクト」はじまる (1993年3月終了)



1986年、協力隊事務局新庁舎および広尾訓練所施設改築竣工

！派遣国での生活技法を習得するため野外訓練がおこなわれる。散髪方法もそのひとつ。交通事情の異なる現地で、隊員たちの安全を確保するため、現地に即応した講座を設けている





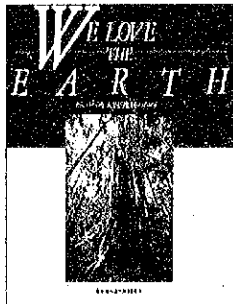
隊員派遣数の増加に伴って、1995年1月、二本松訓練所開所



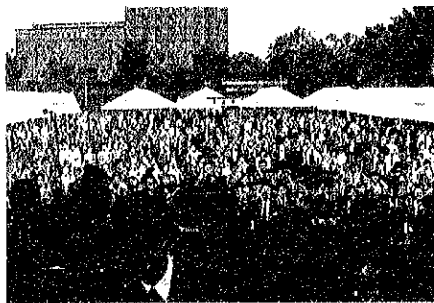
1989年7月、「フィリピン家畜人工受精強化プロジェクト」地方技術者のレベルアップ、小規模零細農民の生活向上を図る目的でスタート



「セネガル緑の推進協力プロジェクト」砂漠化の防止、自然環境保全、植林推進のため、1986年から始まる



協力隊設立25周年記念写真集「WE LOVE THE EARTH」が、写真家野町和嘉氏の全面協力を得て完成



1990年7月3日、日本青年館において平成2年度1次隊社行会および発足25周年記念式典が開催される



1992

ハンガリー
3月16日派遣開始

モンゴル
4月8日派遣開始

ブルンディ
8月26日派遣開始

カンボディア
8月26日派遣再開

ボツワナ
8月31日派遣開始

1993

スーダン
1月派遣中断

ブルガリア
2月16日派遣開始

ポーランド
2月16日派遣開始

ルワンダ
3月派遣中断

エルサルバドル
3月31日派遣再開

メキシコ
7月26日派遣開始

ブルンディ
10月派遣中断

1994

イエメン
6月派遣中断

1995

ヴィエトナム
2月11日派遣開始

エジプト
9月16日派遣取極締結

パキスタン
4月3日派遣開始

セント・ルシア
派遣予定

1992年

6月/環境と開発に関する国連会議「地球サミット」
9月/PKOカンボディア派遣

1993年

6月/カンボディア総選挙
10月/アフリカ開発会議(東京)

1994年

4月/南アフリカ総選挙

1996年

1月/二本松訓練所開所

撮影

- 逢坂慎一 シリア (26P~29P)
佐藤浩治 トンガ、フィジー (70P~77P)
田沼武能 モロッコ、ブルガリア、ハンガリー (30P~33P、60P~67P)
山田芳久 コスタ・リカ、ドミニカ共和国、パラグアイ (64P~67P)
吉田勝美 カンボディア、タイ、ブータン (8P~23P)
渡部光哉 タンザニア、ガーナ、ザンビア (30P~61P)

(五十音順・敬称略)

資料提供

田沼武能
(表紙写真、中編、インド、ヴィエトナム、パキスタン、ジョルダン、
スーダン、チュニジア、イエメン、ボツワナ、ポリヴィア、コロンビア、
エル・サルヴァドル、グアテマラ、ホンデュラス、メキシコ、ニカラグア、
パナマ、ペルー、ポーランド)
国際協力事業団 所蔵

私と青年海外協力隊

田沼武能

青年海外協力隊とおつきあいができてから、早いものでもう二十余年になる。

初めての取材は1972年、タンザニアのキリマンジャロ山麓であった。そこでは、男女合わせて七人の隊員が、農業の支援に汗を流していた。

女性隊員たちは、土地を開墾して野菜栽培を始めたところだった。村に現金収入の道を開こうとしたのである。当初、村の主婦たちは「金を稼いで何をするのか」と、のり気ではなかったという。

だが、そのうち一人の主婦が、野菜の販売収入で、家のわら屋根をトタン葺きにとりかえた。雨もりがしなくなる。それを見た他の主婦たちは、我も我もとトタン屋根にかえ、だれもが野菜栽培に一生懸命になったそうである。

隊員のそんな話を聞くと、撮影するだけの私もうれしくなってしまう。

任期は通常二年、延長して三年、地域の人びとと触れあい、国づくり、人材づくりを手伝う。口でいえば簡単だが、その間の苦勞は語り尽くせないだろうし、それを乗り越えていく献身的な仕事ぶりにはいつも頭が下がる。

若者たちのこうした国際舞台での活躍は、国を越えた交流の輪となり、さらに広く深い泉となっていこう。ごく自然な形で国際協力にいそむ青年海外協力隊の姿は、日本の誇りでもあると思う。

心をつなぐ地球人

青年海外協力隊の軌跡

初版

1995年3月

発行
国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

監修
田沼武能

ブック・デザイン
柴永文夫
岡崎さゆり

編集・印刷
ニッセイエプロ株式会社

非売品

